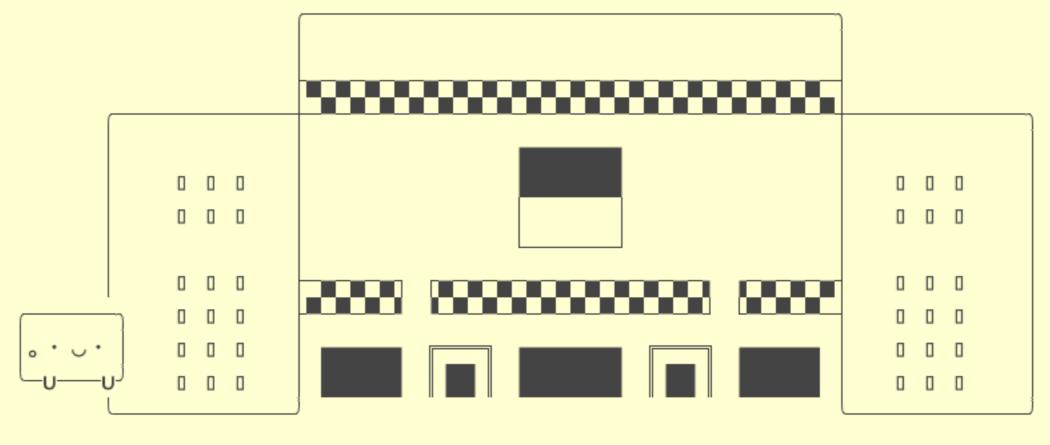
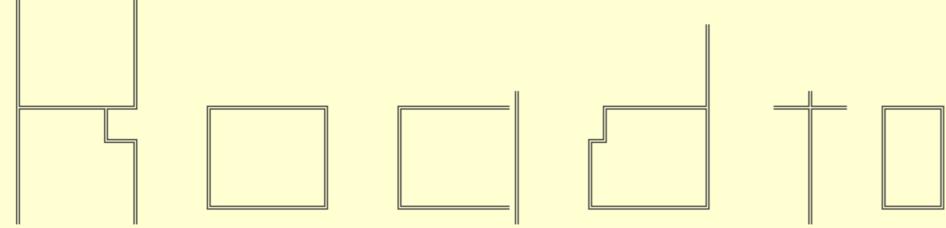
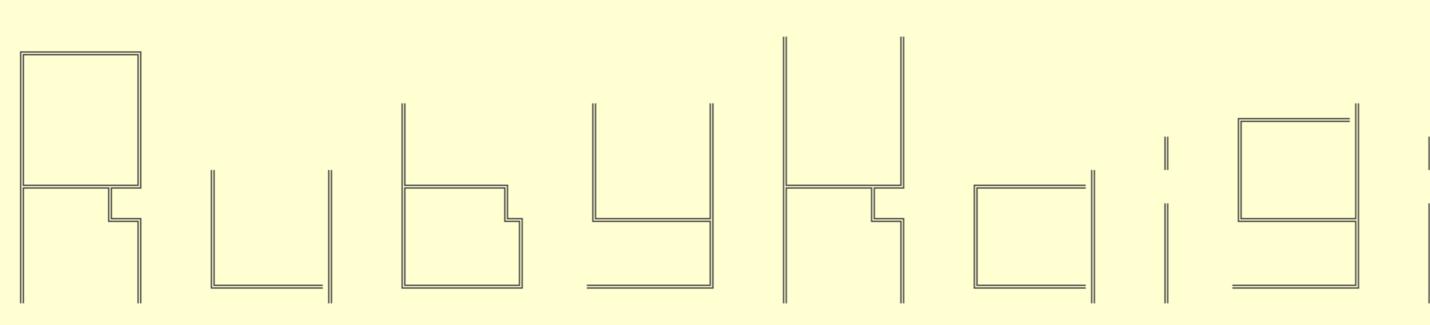
Rubyでつくる

CLI横スクロール アクションゲーム







@makicamel
TokyoWomen.rb #1
2025.03.01

自己紹介

- @makicamel / 川原万季
- Ruby ♥とビール ルとお酒が好き
- ・ (株)アンドパッド



- Ruby on Rails
- Web アプリケーション

昼間のお仕事で Ruby 書けてうれしい

- Ruby on Rails
- Web アプリケーション



RubyKaigi 2024MAY15-17 enaha,okinawa

那覇文化芸術劇場なは一と

NAHA CULTURAL ARTS THEATER NAHArt, Okinawa, Japan (In-person only)

Keynote Speakers

Yukihiro "Matz" Matsumoto

tomoya ishida

Samuel Williams



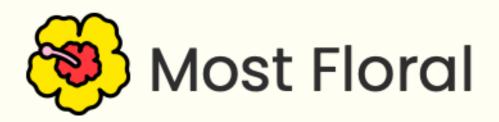
Writing Weird Code







Self TRICK 2024











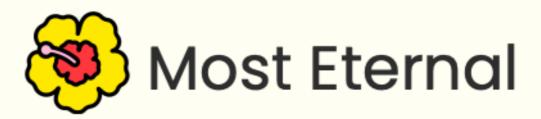












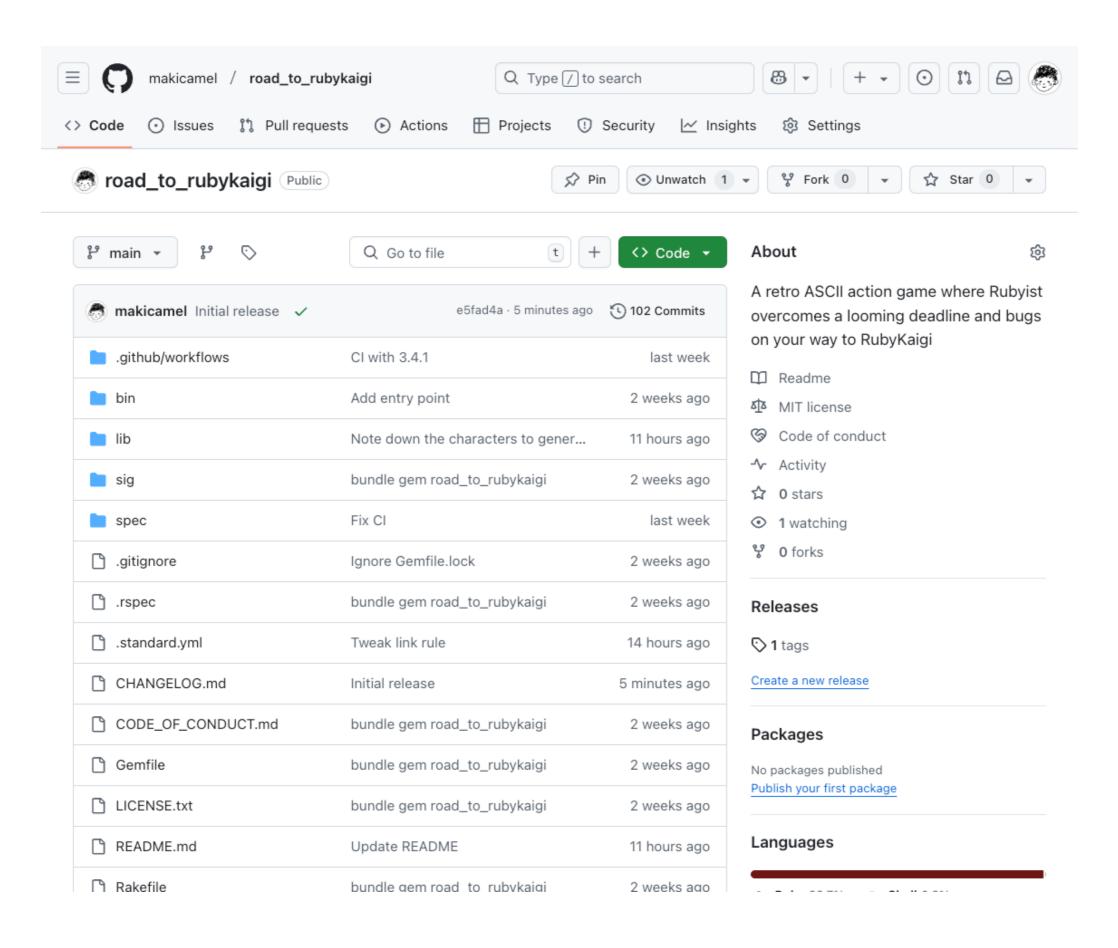


https://github.com/tompng/selftrick2024

格好いい…!!!

なにか つくりたい





Road to RubyKaigi https://github.com/makicamel/road_to_rubykaigi

Road to RubyKaigi

- ターミナル上で遊ぶ横スクロールアクションゲーム
- バグを倒し〆切から逃れて RubyKaigi 参加を目指す
- gem として配布
- `gem install road_to_rubykaigi` → `road_to_rubykaigi` で遊べる

Road to RubyKaigi

● デモ



Road to RubyKaigi https://github.com/makicamel/road_to_rubykaigi

Road to RubyKaigi のつくり方

基本編

端末ゲームプログラミングの基本

- アニメーション
- 入力
- ゲームループ

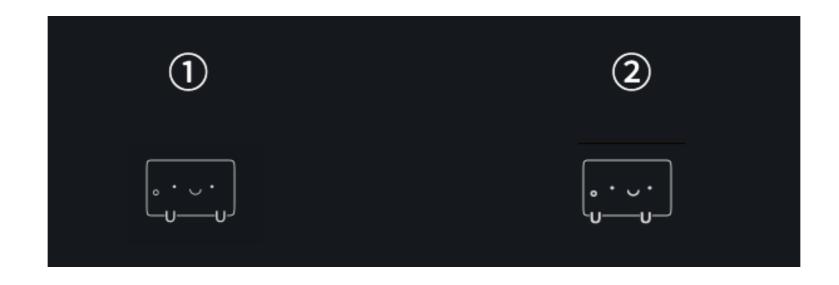
端末ゲームプログラミングの基本

・アニメーション



- 入力
- ゲームループ

- パラパラ漫画
 - ①と②は足の位置が1コマ違う
 - 同じ位置に交互に表示させると足踏みしているように見える
 - 右の位置に移動し交互に表示させると歩いているように見える



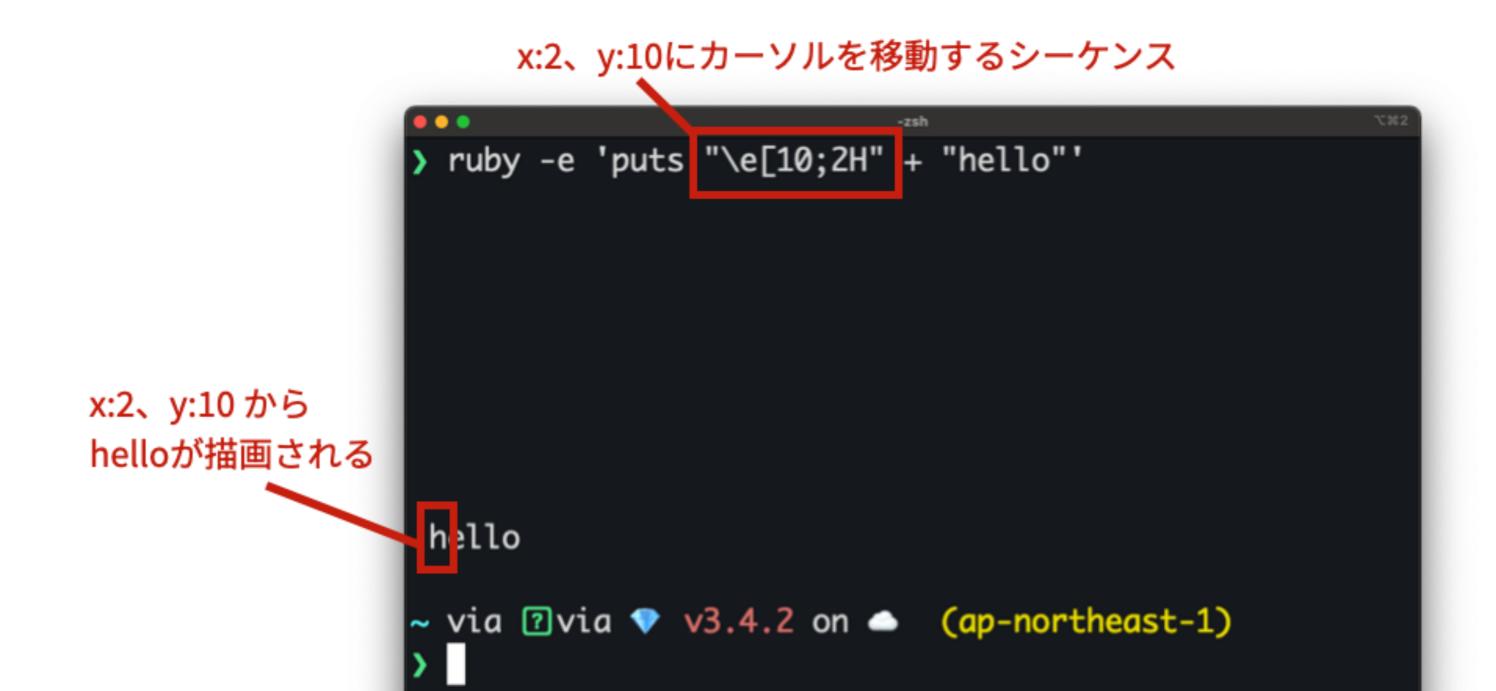
- 位置
 - ANSI エスケープシーケンスで指定できる

- ANSI エスケープシーケンス
 - 端末上で色やカーソル位置などを制御するための文字列

- ANSI エスケープシーケンス
 - e.g. \e[33m: 次の文字からの文字色を黄色に変える

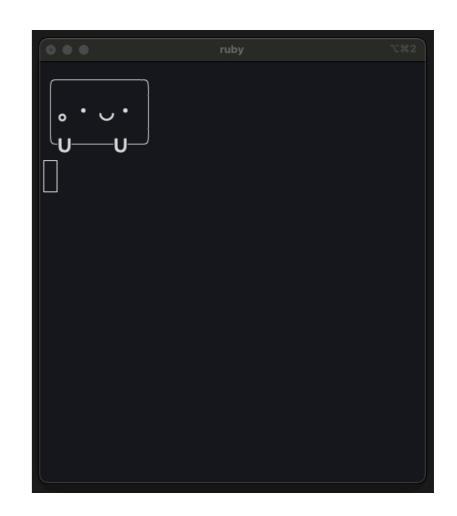
次の文字からの文字色を黄色にするシーケンス ruby -e 'puts "\e[33m" + "hello"' helloが ~ via ☑via ♥ v3.4.2 on △ (ap-northeast-1) 黄色く表示される

- ANSI エスケープシーケンス
 - e.g. \e[1;1H: 座標1;1の位置にカーソルを移動する
 - ※ y;xの順で指定する



● その場で5回足踏みをするアニメーション

```
PLAYERS = [
 <<~PLAYER,
    | •••|
   UUU
 PLAYER
  <<~PLAYER,
    | •••|
   \U-U-
 PLAYER
print "\e[2J" # <u>画面</u>クリア
5.times do
 PLAYERS.each do | player |
   print "\e[1;1H" + player # 毎回1;1の位置に描画する
   sleep 0.5
 end
end
```



端末ゲームプログラミングの基本

- アニメーション
- 入力 🗔
- ゲームループ

● キー入力を受け付けてキャラクターを操作する

- 端末の入力モード
 - Cooked モード(カノニカルモード)
 - 入力文字列をバッファリングし改行でプログラムへ送信する
 - デフォルト
 - Raw モード(非カノニカルモード)
 - 入力文字列をバッファリングせずプログラムへすぐ送信する
 - ゲームなどリアルタイム性がほしいもの向き

- 端末の入力モード
 - Ruby では IO#raw で Raw モードに変更する

```
STDIN.raw {
#入力読み込み処理
}
```

- IO#read_nonblock
 - ノンブロッキングモードで IO からデータを読み込む

```
str = STDIN.readpartial(1) # ブロックする
puts :hello
puts str
#文字入力するまで hello が表示されない

str = STDIN.read_nonblock(1, exception: false) # ブロックしない
puts :hello
puts str
#文字入力前に hello が表示される
```

IO#readpartial https://docs.ruby-lang.org/ja/latest/method/IO/i/read_nonblock.html
IO#read_nonblock https://docs.ruby-lang.org/ja/latest/method/IO/i/read_nonblock.html

● Raw モード + ノンブロッキングモードで入力受付け

端末ゲームプログラミングの基本

- アニメーション
- 入力
- ゲームループ

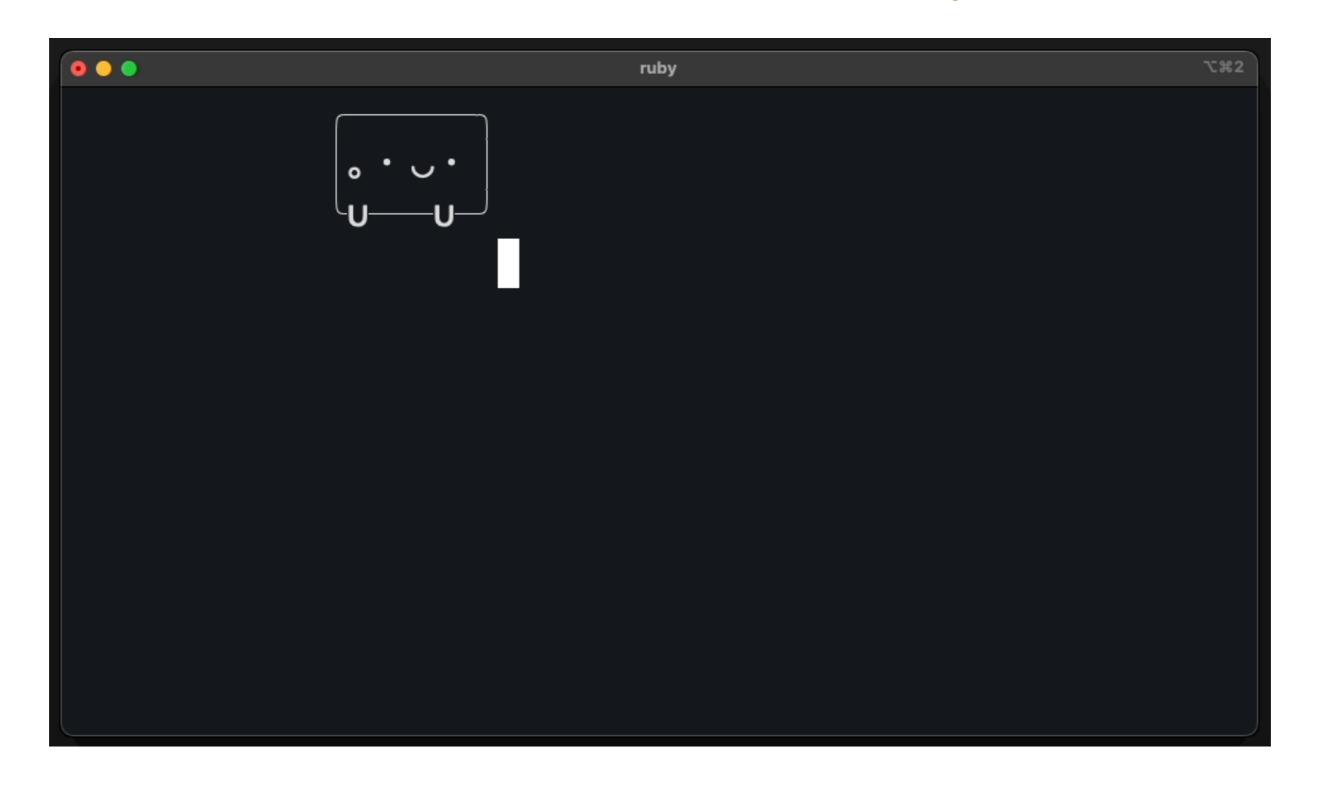
- ・とは
- ゲーム実行中に無限に繰り返すメインループのこと

- 以下の処理を一定のフレームレートで繰り返す
 - 入力処理
 - 更新処理
 - e.g. キャラクターの状態変更、当たり判定
 - 描画処理

• ミニマムなゲームループ

```
PLAYERS = #...
frame_index, x, x_min, x_max = 0, 10, 1, 20
STDIN.raw {
  loop {
    #入力処理
    case STDIN.read_nonblock(3, exception: false)
    #更新処理
    when "\e[C" # right
     x += 1
    when "\e[D" # left
     x = 1
    when "\x03" # Ctrl+C
      exit
    end
    x=x.clamp(x_min, x_max) # 描画領域内に収める
    frame_index = (frame_index + 1) % 2
    #描画処理
    print "\e[2J" #画面クリア
    PLAYERS[frame_index].lines.each_with_index { |line, i| print "\e[#{i+1};#{x}H" + line }
    sleep 0.5 # 2FPS
```

●「←」「→」を受け付けて左右に動くゲームができた



Road to RubyKaigi 編

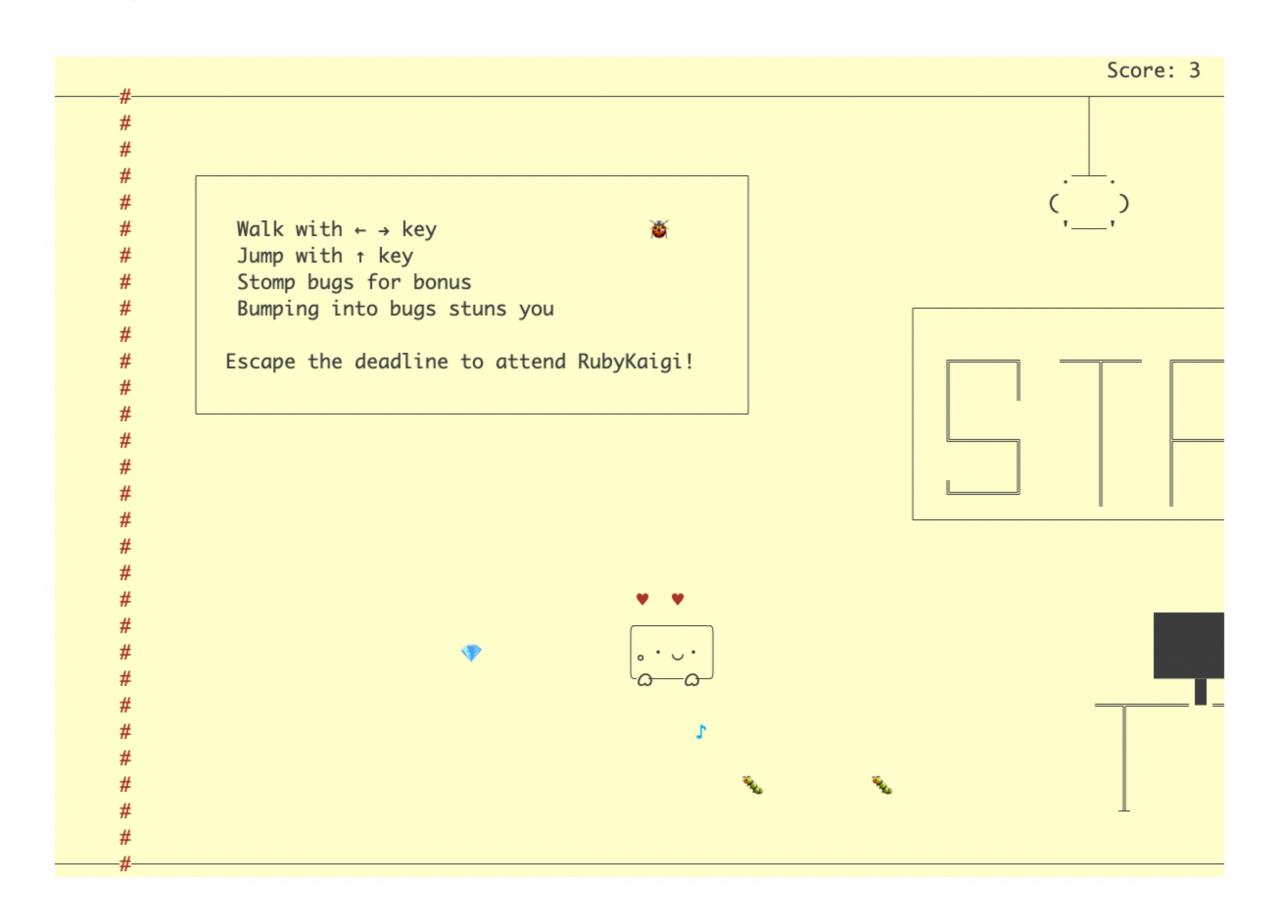
端末ゲームプログラミング実践編

- レイヤー合成
- 物理シミュレーション

端末ゲームプログラミング実践編

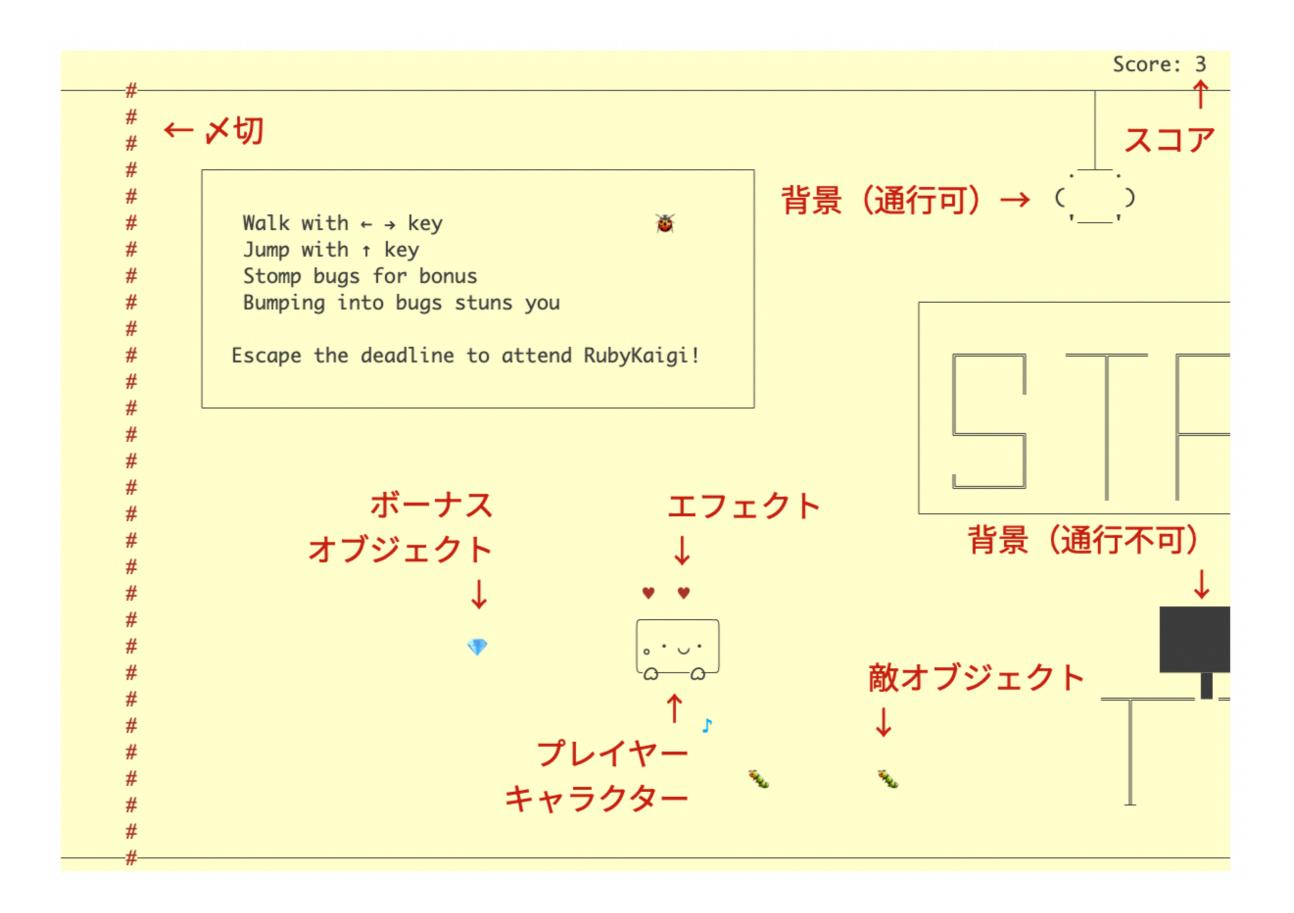
- レイヤー合成 □
- 物理シミュレーション

● オブジェクトの種類



オブジェクトの種類

● 8 種類



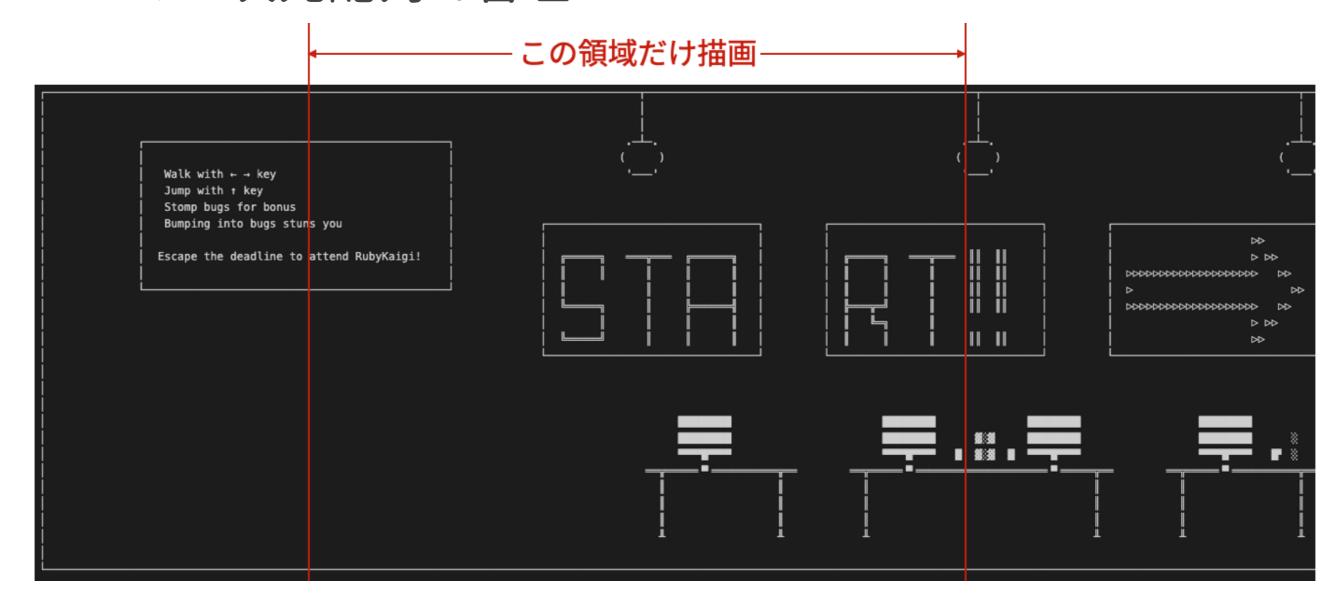


- オブジェクトをレイヤーとクラスで管理する
 - 背景レイヤー
 - 背景(アスキーアート)
 - マスク(通行可否情報)
 - 前景レイヤー
 - プレイヤー(ひとつ)
 - 敵オブジェクト(複数個) etc
 - その他
 - ・スコア

- オブジェクトをレイヤーとクラスで管理する
- 描画時にマージする

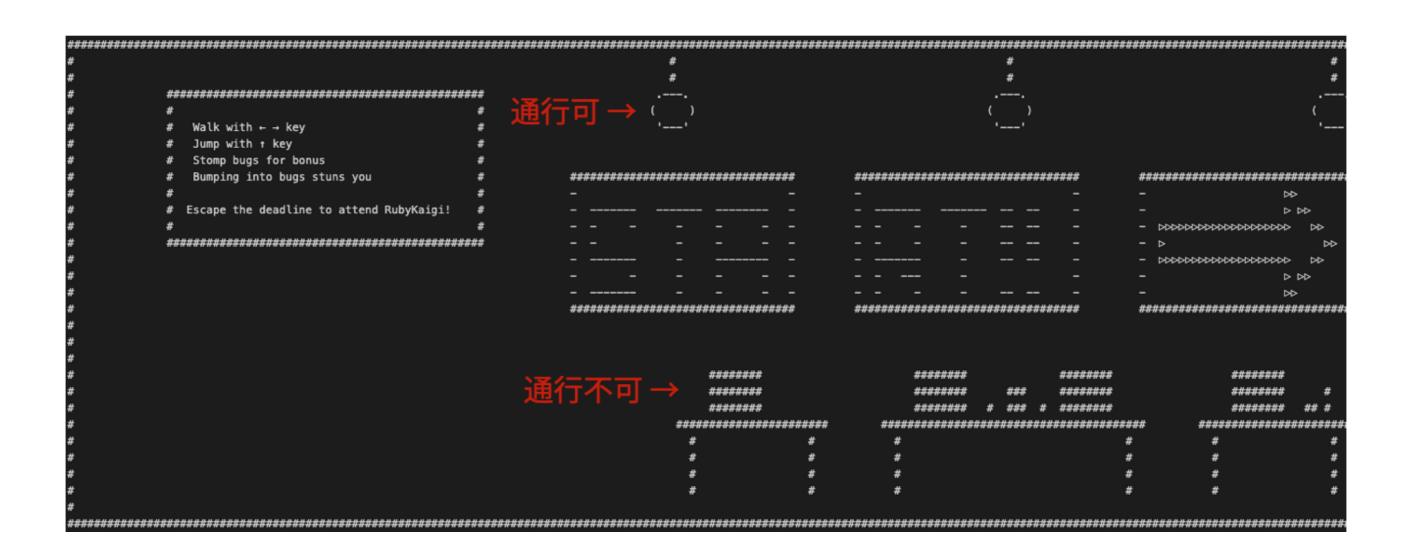
背景レイヤー

- 背景(アスキーアート)
 - アスキーアートを読み込み、描画領域分(100 x 30)を描画
 - 1文字を1つの「Tile」クラスのオブジェクトにする
 - 100 x 30 の 2 次元配列で管理



背景レイヤー

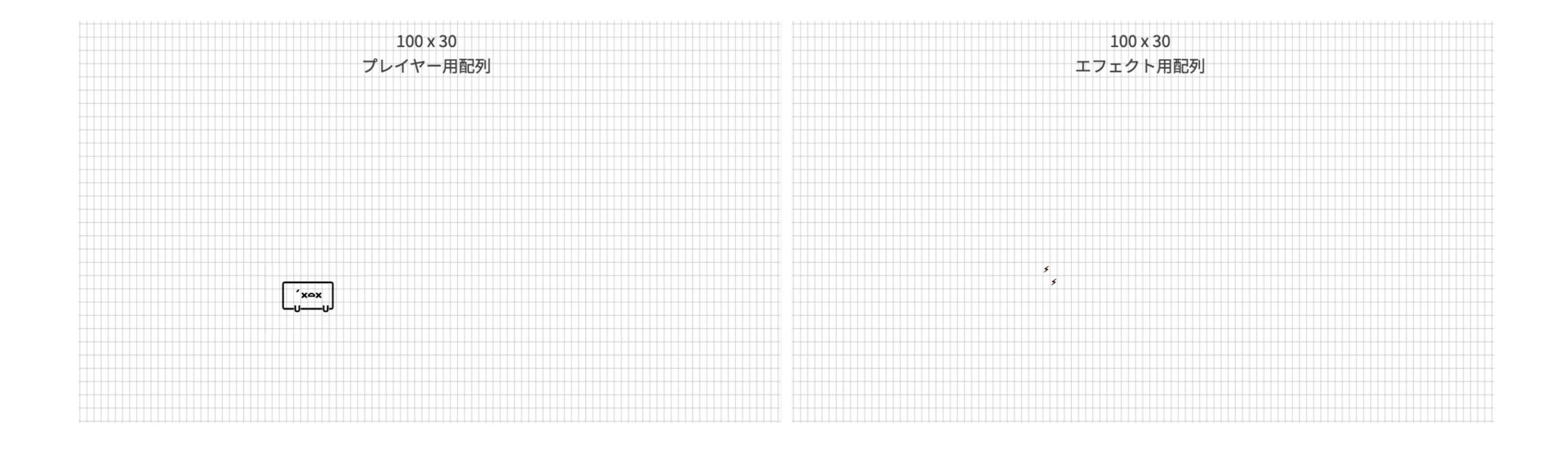
- マスク(通行可否情報)
 - 背景のアスキーアートからマスクデータを作成
 - 通行不可にしたい箇所をマスク文字(#)に置換
 - 該当座標がマスク文字(#)の Tile は通行不可オブジェクト



- プレイヤーキャラクター
- ボーナスオブジェクト
- 敵オブジェクト
- エフェクト
- ●メ切



- 各クラス 描画領域分(100 x 30)の 2 次元配列を確保
 - 座標位置の配列に1文字ずつ格納



- ●「1文字」
 - 1文字として扱いたい単位

- ●「1文字」
 - 1文字として扱いたい単位
 - "" は2文字として扱う
 - 半角文字 2 文字分の描画領域を使用するので
 - 配列の次の要素に NULL 文字(制御文字)を入れて 2 文字分の領域を確保する ["♥", "\0"]

- ●「1文字」
 - 1文字として扱いたい単位
 - "\e[33m" + "≤" + "\e[38;5;238m" は 1 文字として扱う
 - ANSI エスケープシーケンス自身は描画されないので

- 背景レイヤと前景レイヤの各クラスの配列をマージ
 - 背景 → プレイヤー → 敵 → エフェクト ... のように後ろから順にマージ
- マージ済配列を描画する

端末ゲームプログラミング実践編

- レイヤー合成
- 物理シミュレーション 🗔

物理シミュレーション

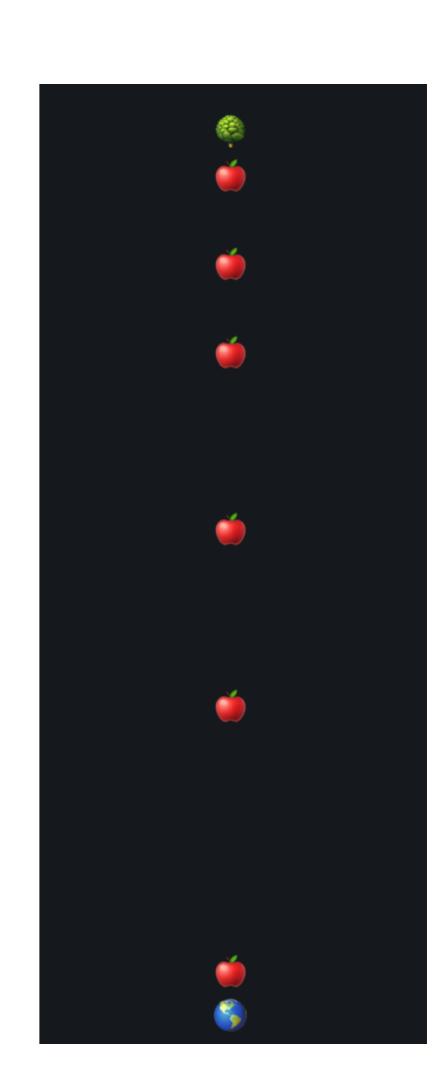
- ・とは
- 物理法則を計算することで現象を数値的に再現すること

物理シミュレーション

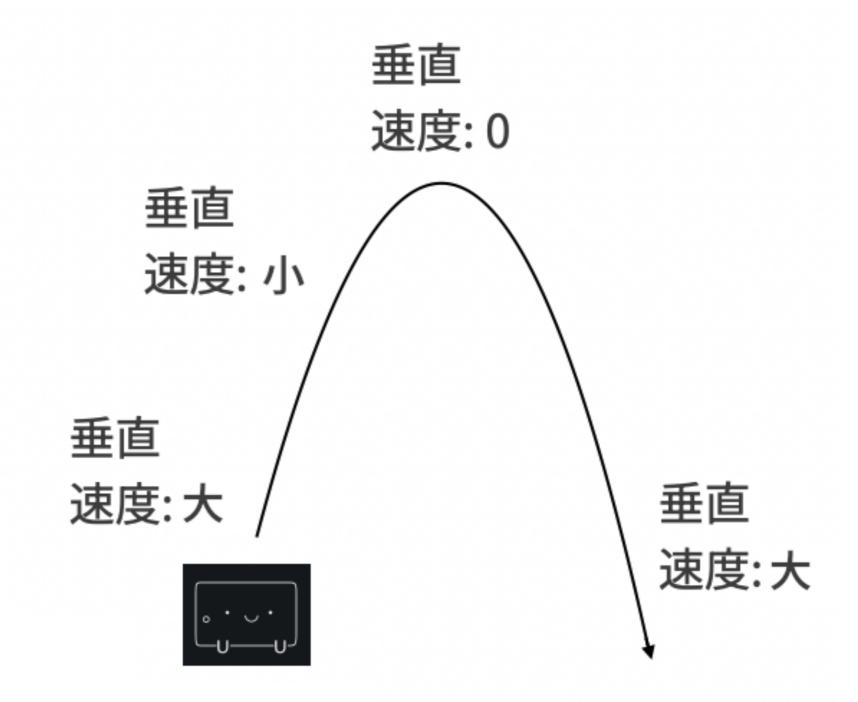
- e.g. 重力加速度に従って落ちるりんごのシミュレーション
 - 速度(m/s) = 速度(m/s) + 重力加速度(m/s²) * 時間(s)
 - 移動距離(m) = 移動距離(m) + 速度(m/s) * 時間(s)

```
height, goal_height = 1, 15
velocity = 0.0 # 速度 (m/s) 初速は0
step_second = 0.3 # ステップ時間 (s)
gravity = 9.8 # 重力加速度 (m/s²)

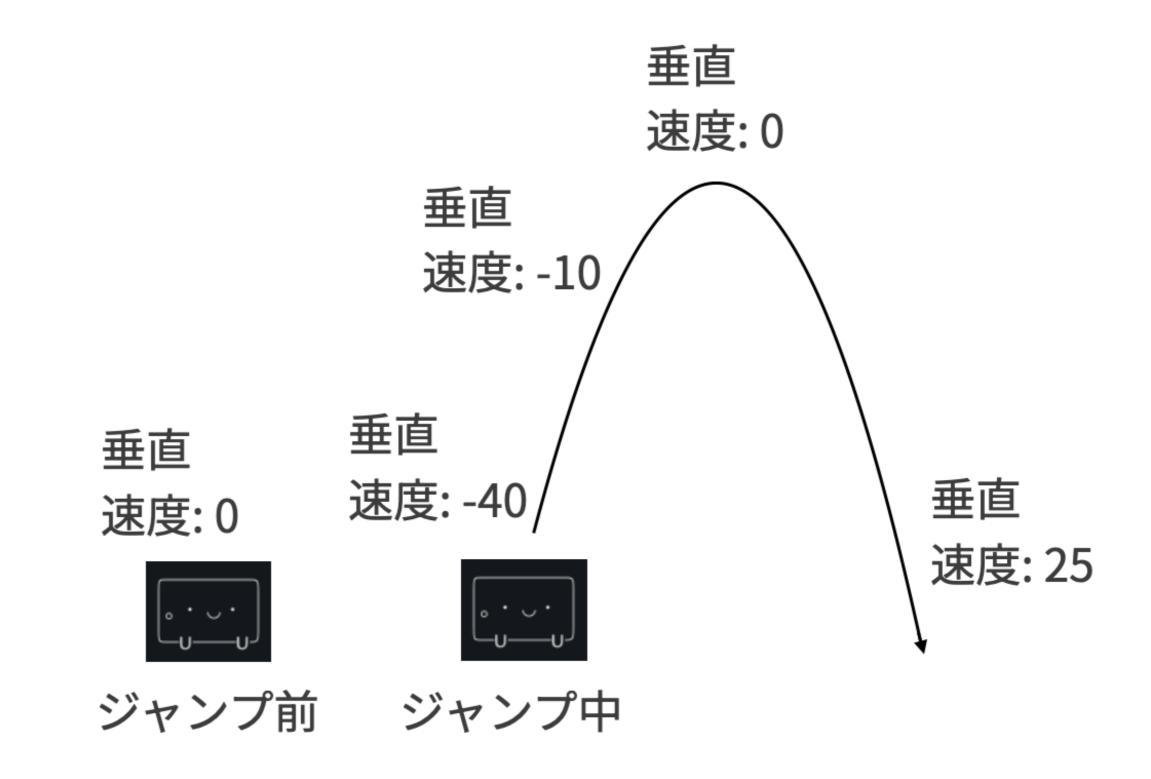
puts "\e[2J" + "\e[#{height};10H" + "學"
while height < goal_height
velocity += gravity * step_second
height += velocity * step_second
puts "\e[#{height.round.to_i};10H" + "●"
sleep step_second
end
puts "\e[#{height.round.to_i+1};10H" + "●"
```



- 上昇時
 - 初速が最も大きい
 - 高度が高くなるほど垂直速度が下がる
 - 垂直速度が 0 になると下降に切り替わる
- 下降時
 - 初速 0
 - 高度が低くなるほど垂直速度が上がる

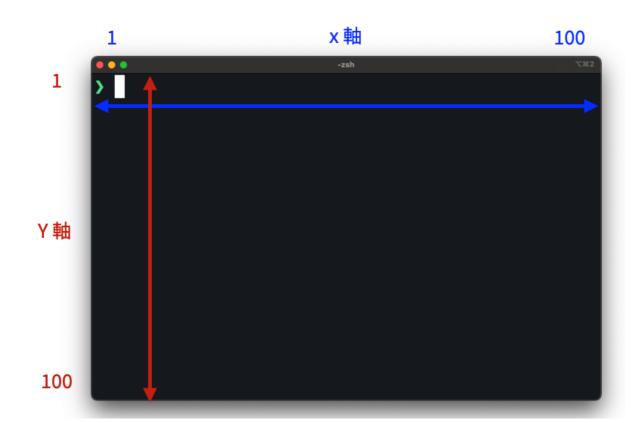


※ 今回は垂直速度ではなく垂直速度の絶対値が大小します



垂直速度のみ持つと真上にジャンプする 垂直速度と水平速度を持つと放物線状にジャンプする

- ジャンプキーの入力を受付けると垂直速度をセット(初速)
- 初速は上向きなのでマイナス
 - 端末座標の y 軸は上が小さく下が大きい



```
# ジャンプ開始処理

# JUMP_INITIAL_VELOCITY: 垂直速度初速 (-40)

# @y_velocity: 垂直速度

def jump

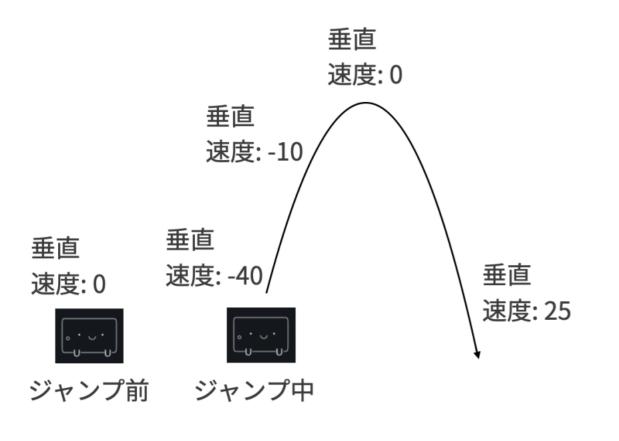
unless jumping?

@jumping = true

@y_velocity = JUMP_INITIAL_VELOCITY

end
```

- 垂直速度(コマ/秒) = 垂直速度 + (重力加速度(コマ/秒²) * 経過時間(秒))
- 垂直位置(コマ) = 垂直位置 + (垂直速度(コマ/秒) * 経過時間(秒))



```
# 更新処理
# JUMP_GRAVITY: 重力加速度 (80)
# @y_velocity: 垂直速度 (初期値は -40)
def update
# ...
@y_velocity += JUMP_GRAVITY * elapsed_time
@y += @y_velocity * elapsed_time
```

物理シミュレーション

● 物理シミュレーションをすると表現の幅が増える

Road to RubyKaigi のつくり方

- アニメーション
- 入力処理
- ゲームループ
- レイヤー合成
- 物理シミュレーション

ゲームづくり

- すぐ動く、すぐたのしい
- Ruby すごい
 - 標準ライブラリが豊富
 - 文字列操作が得意
- 数学・物理が苦手でもなんとかなる

Special Thanks

@youchan

Enjoy Creating!